

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3990100210		
法人名	医療法人 仁照会		
事業所名	グループホーム ほっと館		
所在地	高知県高知市春野町秋山1599-1		
自己評価作成日	平成29年 9月 8日	評価結果 市町村受理日	平成30年1月23日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周囲を山や田に囲まれて、四季の移ろいを感じられる場所にある。三十四番の札所に近く、お遍路さんが立ち寄ってくれることもある。  
 長く努めている職員が多く、事業所自体が家庭の雰囲気である。そして、利用者もその中で家族の一員のように暮らしている。事業所の理念に基づき、身体拘束や虐待防止に力を入れ、毎月のカンファレンスで職員に周知し、利用者個々の尊厳に努めている。  
 防災についても、地区との交流や運営推進会議で意見や情報交換を行い、意識を高めている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kajigokensaaku.mhlw.go.jp/39/index.php?action=kouhyou_detail_2017_02_kihontrue&amp;ji_gyosyoCd=3990100210-00&amp;PrefCd=39&amp;VersionCd=022">http://www.kajigokensaaku.mhlw.go.jp/39/index.php?action=kouhyou_detail_2017_02_kihontrue&amp;ji_gyosyoCd=3990100210-00&amp;PrefCd=39&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成29年 10月 17日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は田園地帯に立地し、日々の生活の場である居室や居間や食堂から四季の変化を味わうことができ、居心地よく、穏やかに暮らせる環境に恵まれている。  
 長年勤めている職員が多く、利用者や家族との信頼関係が築かれている。定期的に訪れる家族も多く、意見や要望を聞く機会になっている。  
 事業所の設置主体は医療法人であり、医療連携体制が整っていることへの安心感から、事業所での看取りを希望する家族も比較的多い。利用者や家族の意向を尊重してチームで支援し、家族と共に看取る事例も多い。母体法人本部から年間教育計画が示され、それに沿って年間の職場内研修を計画して実施し、看取りについての学習も継続的に取り組み、職員の心構えや資質の向上につなげている。

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名:大地

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<b>○理念の共有と実践</b> 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「個人を尊重する、心身の活性化に努める、地域社会へ生活の場を広げる」という運営理念を職場内研修や月例会で管理者、職員で話し合い、月々の目標を設定して、理念の再確認と共有を行い実践に努めている。	「心の平和をお守りします」という法人共通の運営理念に基づき、事業所独自で毎月の取り組み目標が作られ、日々のケアに浸透させている。理念は玄関や共用空間に掲示し、毎月のカンファレンス等で復唱して認識を共有している。	
2	(2)	<b>○事業所と地域とのつきあい</b> 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者は、文化祭への作品出展や地域での食事会へ定期的に参加したり、地域からのお誘いで敬老会やクリスマス会などの地区の行事に参加し、地域住民と交流している。	地域の食事会や敬老会、クリスマス会に参加し、住民との交流を楽しんでいる。文化祭には貼り絵を出展し、また、地域の理美容院に行くことで繋がりが深まった。過去には外出した利用者を住民が保護してくれたことがあり、協力関係はできている。	
3		<b>○事業所の力を活かした地域貢献</b> 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで、職員が受講した研修について内容報告したり、事業所での取り組みを報告し、助言を得ている。	/	/
4	(3)	<b>○運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の様子や事業所の活動、取り組みについて報告をし、家族や民生委員、地域の代表者や行政関係との意見交換で助言も受けて、サービスの向上に活かしている。	毎月ミニミニ通信を家族に発送し、利用者の暮らしの情報と共に運営推進会議参加の案内をしているが、家族や地域住民の参加が少ない。会議では、外部評価の結果や目標達成計画も報告され、議事録は家族に送付している。	運営推進会議の目的と内容や参加の必要性を家族や地域住民に理解してもらい、参加者増が図れる働きかけを、運営推進会議で検討することを期待する。
5	(4)	<b>○市町村との連携</b> 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や介護認定調査、市のグループホーム連絡会などで事業所の実情や入居者の状況、事業所の取り組みを報告し、助言を得ながら、直面する課題等の相談できる協力関係を築いている。	帰宅願望や病院に不信感をもつ困難事例の対応について、地域包括支援センター担当者に相談して、助言を得ている。利用者の状況についても随時報告し、協力関係を築いている。	
6	(5)	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は、外部研修に参加したり、身体拘束の禁止事項や弊害について内部研修でマニュアルをもとに理解を深めている。利用者を見守りながら、安全で自由な暮らしができるよう取り組んでいる。行動を抑制しない言葉かけなど、精神面にも留意して取り組んでいる。	身体拘束の外部研修参加や職場内研修の実施により、職員は、言葉による拘束などの認識を共有している。夜間帯以外は玄関の施錠はせず、出入りはチャイムで確認している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は、職場内研修でも、マニュアルや受講した研修をもとに、知識や理解を深めている。運営推進会議などで、家族や住民にも研修内容を報告し、広く注意が払われるように努めている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職場内研修で話し合い、権利擁護に関する職員の理解を深めているが、すでに制度利用している利用者もいることから、職員は、十分理解できている。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所申し込み時や契約時に、内容については十分説明を行っている。契約後の改定などがあれば、その都度説明を行い、納得を得ている。		
10	(6)	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置したり、運営推進会議やアンケートなどで利用者、家族の意見や要望を確認している。また、家族とは面会時に個別に話したり、普段から密な関係を築く中で、利用者、家族の意向を運営に反映させている。	面会等で家族が訪れた際に、要望などを聞き、利用者の近況報告をしている。「昼間居室で寝ている時は起してほしい」「太り過ぎ」などの要望があり、ケアプランに反映させている。運営推進会議の意見でアンケートを実施したが、返信はない。家族会は開催できていない。	敬老会やクリスマス、ひな祭りなど事業所の催しに合わせ、短時間の設定でよいので、家族だけで話し合い、要望が伝えられる機会を設けることを期待する。
11	(7)	<b>○運営に関する職員意見の反映</b> 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別に随時相談を受ける機会を設けているほか、月例会等で意見を出し合い、代表者、管理者に報告して運営に反映させている。	月1回の合同職員会で意見を言ったり、日頃から管理者にも意見や要望が言えている。勤務の希望も特に制限されていない。勤続年数の長い職員が多く、定着率の高さから働きやすい職場であることが窺え、そのため、利用者も穏やかに落ち着いている。	
12		<b>○就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月に一度、代表者や他の事業所との会合を持ち、職場でのカンファレンスも行なっている。職場の問題や整備について、毎日の報告書に要望を揚げるなどしており、条件の整備に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<b>○職員を育てる取り組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	講習会等の案内を掲示し、職員の自主参加や研修の呼びかけを行なっている。母体法人内でも、月例会で勉強会を行なっている。		
14		<b>○同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム連絡会や、近隣の事業所が集まる勉強会などに参加し、事例検討や取り組みなどを話し合っ、サービス向上に活かしている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<b>○初期に築く本人との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者本人からの要望や意見は傾聴することを職員に周知徹底し、利用者との信頼関係を築いている。		
16		<b>○初期に築く家族等との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族から聞く入所の経緯や要望等に耳を傾け、時間をかけて話し合い、納得してサービスを利用してもらえるように努めている。		
17		<b>○初期対応の見極めと支援</b> サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の意向を聞き、それぞれの意向に沿う支援となるよう必要なサービスを見極め、対応するようにしている。		
18		<b>○本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者一人ひとりの個性を見極め、家事や買い物等に参加できるように努めている。利用者の得意なことなどを職員が教えてもらったりしながら、共に過ごす関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が気軽に訪問しやすい雰囲気づくりを心がけ、面会時に近況報告を行ったり、ケアプランに家族の意向を加え、家族と共に本人を支えていく関係を築くようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人のこれまでの生活歴を踏まえ、馴染みの美容院に行ったり、イベントの時期には家族に地元の交流の場への参加の声をかけを行ったりと、これまでの馴染みの関係性が途切れないように努めている。	週1回程度家族と買い物に出かけたり、馴染みの美容院に行き、繋がりを大切にしている。生まれ育った地域で開催される敬老会やクリスマス会などのイベントに参加しており、知り合いとの会話を楽しむ機会になっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い者同士で会話ができるように席を工夫したり、利用者同士でコミュニケーションが図れるように仲立ちしたりして、利用者が孤立せず生活できるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、家族との信頼関係を大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりと直接話しをして希望を聞いたり、その人らしく暮らしていけるよう意識しながら、日常会話や行動の中からも、本人の意向や思いの把握に努めている。	入所時に利用者、家族の思いや意向を聞いて、フェースシートに記載している。日々のケアでは、意思疎通が困難な利用者は表情や仕草で把握し、難聴の利用者はジェスチャーで意向を汲み取っている。フェースシートに新たな情報は追記されていない。	フェースシートに新たな情報の追記がされていないことから、本人の誕生日にフェースシートを振り返り追記する等の定期的な見直しのほか、新たな気づきがある都度その思いを追記していき、本人本位のケアに活かすことを期待する。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に本人、家族、病院、ケアマネジャーからこれまでの生活歴や状況を聞き、入所に至るまでの経緯を把握できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		<b>○暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの心身の状態を見ながら、本人に合った生活が維持され、過剰な介護にならないようにしている。		
26	(10)	<b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントとモニタリングを繰り返しながら、本人、家族の意向を踏まえて、本人がより良く暮らすことができるように職員、関係者と話し合い、ケアプランを作成している。	モニタリング内容は「介護サービス計画会議録」に記載し、ケアマネージャーと職員でケアプラン会議を行い、本人、家族の意向を確認して見直している。「太っている」「寝てばかりで活動が低い」などの意見や要望に対して、ラジオ体操や間食に留意するなどして、ケアプランに反映させている。	
27		<b>○個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の利用者の様子やケアの状況を介護記録に記入し、朝夕の申し送り時に職員間で情報共有をしている。ケアの見直しは、介護記録をもとに話し合って検討している。		
28		<b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b> 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療機関受診や美容院への付き添いなど、その時の家族の状況に応じて柔軟に対応している。		
29		<b>○地域資源との協働</b> 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議での話しや、民生委員、地域住民から得た情報などをもとに、個人に見合った催し物や行事への利用者参加を支援している。		
30	(11)	<b>○かかりつけ医の受診支援</b> 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでのかかりつけ医を基本に受診できるよう、支援している。希望により、事業所の協力医療機関をかかりつけ医とする利用者もいる。歯科受診が必要な場合には、往診も受けられるよう支援している。	利用者個々のかかりつけ医と、協力医療機関への受診は、殆ど家族が付き添っている。受診後は職員が医療機関からの連絡事項を確認し、日誌やカレンダーに記載して、情報を共有している。必要なときには、家族にも連絡している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職との協働</b> 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週の訪問看護時には、職員から利用者に関する情報を伝え、受診が必要かどうかの相談などをして、助言を得ている。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には職員又は家族が同行し、利用者の情報提供を行うなどして、治療できるように努めている。また、病院や家族と話し合い、早期に退院できるよう支援している。		
33	(12)	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時と重度化時に家族に説明し、同意を得ている。重度時には、家族の希望を第一に、早い段階から家族とかかりつけ医との話し合いをして、事業所で対応できることを説明し、家族、医療機関との連携を取りながらチームで支援に取り組んでいる。	入所時と重度化時に「重度化の指針」について本人、家族に説明して、同意を得ている。重度化時には協力医療機関の医師、家族と話し合い、ターミナルケアでは褥瘡予防ベッドにチェンジしている。職員への研修も年2回実施しており、この1年間で3人の看取り実績がある。	
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、全職員が参加できるように日程を組み、救命講習に参加している。心配蘇生法やAEDの使い方などの訓練を行なっている。		
35	(13)	<b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導で年2回避難訓練を行っている。火災、地震等様々な場面を想定して、訓練している。近所の住民にも呼びかけ、訓練に参加してもらい、協力をお願いしている。さらに、災害時に備えて食料、飲料水、物品等の備蓄も行なっている。	年2回通報訓練、災害避難訓練を実施し、1回は消防署の立会いで消火訓練を行っている。10分程度で全員が庭に避難でき、消防車は5分程度で到着可能である。近所の住民の協力もある。食料や水など、3日以上以上の備蓄がある。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	<b>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</b> 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護についての研修を行なっている。個人を尊重し、言葉かけや排泄時での尊厳を傷つけないように対応している。個人情報についても、漏洩がないように周知徹底し、十分注意している。	「個人を尊重します」の理念が浸透しており、プライバシー保護の研修で、守秘義務も徹底されている。排泄の声かけや失敗には、利用者の尊厳に留意し対応している。入浴は同性が介助して、羞恥心に配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		<b>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</b> 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の話を傾聴し、本人の思いを引き出して、色々な思いや希望について、本人が自己決定できるような働きかけを行なっている。		
38		<b>○日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合やペースを優先するのではなく、利用者一人ひとりのペースやリズムに合わせて、できる限り本人の希望に沿って一日を過ごせるよう、支援している。		
39		<b>○身だしなみやおしゃれの支援</b> その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族に本人の好みをよく聞き、本人にもその都度確認し、例えば着替えなどでも選択できるようにして、その人らしい身だしなみができるよう支援している。		
40	(15)	<b>○食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりに合った食事形態や個々の好みを把握し、メニューに取り入れている。そのメニューが好きな利用者には、準備段階で「楽しみにして」等の声かけをし、一緒に準備したり、配膳、片付けも手伝ってもらっている。	食材は利用者と一緒に事業所本部へ取りに行き、調理は各ユニットで分担している。野菜の皮むきは、利用者と一緒にやる。管理栄養士のチェックと助言を、3ヶ月に1回受けている。嚥下機能が低下気味の利用者には、刻み食やトロミを使い、食事介助を行っている。	
41		<b>○栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日のメニューと食事、水分の摂取量等を日誌に記録している。利用者の嚥下状態や口腔内の状態に合わせて、刻み等の形態を調整し、利用者の好みに合わせた物を提供している。		
42		<b>○口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者個々に応じた口腔ケアを行っている。個人の能力に合わせて、声かけや介助を行なっている。		
43	(16)	<b>○排泄の自立支援</b> 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中、夜間共に本人に合わせたケアを行っている。排泄リズムを把握して誘導をしたり、日中の活動や水分補給で、できるだけ尿意を自覚してもらえるようにし、個々の排泄の自立を促すよう支援している。	利用者個々に合った時間にトイレ誘導をすることで、失禁が少なくなった。介護度が高く、紙おむつを使用している利用者以外は、布パンツやリハビリパンツにパットを使い、トイレで排泄できている。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		<b>○便秘の予防と対応</b> 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	こまめに水分を提供し、水分摂取を促している。ラジオ体操等を行い、運動も働きかけながら、下剤等に頼ることなく、適切な排便が促せるように取り組んでいる。		
45	(17)	<b>○入浴を楽しむことができる支援</b> 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の入浴の希望や時間を聞き、合わせている。拒否があるときは無理強いせず、別の日にしたり、タイミングや声掛けを工夫し、納得して入浴もらっている。プライバシーや羞恥心に配慮しながら、気分良く入浴できるよう支援している。	利用者の希望を聞いて、週2回から3回、午前中に入浴している。入浴拒否があるときは、おやつの後などにタイミングをみて誘い、最低週に1回は入浴できるよう、清潔保持にも配慮している。羞恥心に配慮して、同性が入浴介助を行っている。	
46		<b>○安眠や休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のペースや体調に合わせて、利用者一人ひとりに応じて休息出来るようにしている。		
47		<b>○服薬支援</b> 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人別に処方箋をファイルし、職員が常に確認できるようにしている。体調や症状に変化があったときには、医師や訪問看護師に相談して、すぐに対応している。		
48		<b>○役割、楽しみごとの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や趣味、本人の能力を活かして、家事やレクリエーションに取り組み、利用者一人ひとりが役割を持ち、気分転換をして楽しめるように努めている。		
49	(18)	<b>○日常的な外出支援</b> 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブ等で外出の機会を作っている。また、季節の花が咲く時期には花見に出かけたりしている。家族と外出する利用者もあり、季節に応じて地域の行事や、母体法人の催し物にも参加している。	職員と一緒に土手の散歩コースを歩いたり、週2回程度庭先でおやつ時間を過ごしたりしている。事業所本部の車で季節の花見にドライブしたり、母体法人で催されるボランティアによる踊りを見に行くなどで外出を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<b>○お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所で金銭を預かり、個人の希望や能力に応じて所持してもらい、買物時には自分で払うことができるように支援している。		
51		<b>○電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から手紙が来たり、本人に電話がかかってくることもあり、本人の希望があればこちらから電話するなどの対応を行なっている。		
52	(19)	<b>○居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室やリビング、全ての空間の清潔保持に努めている。適切な温度管理は、日差し等、季節や天候に合わせて柔軟に対応し、花を飾る等の工夫で快適に過ごせるよう努めている。	居間と食堂と台所が一体化しており、ソファや畳のコーナーもあって、職員と共に安心して過ごせる場になっている。日当たりも良く、田園風景に囲まれ、居心地良く生活出来ている。壁には利用者と職員が共同で作成した貼り絵が飾られ、利用者の達成感が窺える。	
53		<b>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには一人かけの椅子や共同のソファがあり、本人の好きな場所で過ごせるように工夫している。また、仲の良い利用者同士で過ごせる配慮もしている。		
54	(20)	<b>○居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室という個人の空間を大切に、プライバシーに配慮しながら入居時に使い慣れた馴染みの物や好みの物を持って来てもらっている。家族とも話し合い、必要があれば手すりや家具の配置を工夫している。また、本人の希望は家族に相談して、居心地良い暮らしができるよう支援している。	居室の窓からは、四季の変化を味わうことが出来る。寝具や筆筒や椅子など馴染みの物に囲まれ、家族の写真を飾ったり、テレビを置いたり、衣服のハンガー掛けを置いてお洒落を楽しんだり、清潔で、その人らしく過ごせる工夫がされている。	
55		<b>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビング以外の共同空間には手すりが設置されている。トイレ、風呂は1人用で、個人のペースに合わせた対応が出来るようになっている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名:大空

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<b>○理念の共有と実践</b> 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「個人を尊重する、心身の活性化に努める、地域社会へ生活の場を広げる」という運営理念を職場内研修や月例会で管理者、職員で話し合い、月々の目標を設定して、理念の再確認と共有を行い実践に努めている。		
2	(2)	<b>○事業所と地域とのつきあい</b> 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者は、文化祭への作品出展や地域での食事会へ定期的に参加したり、地域からのお誘いで敬老会やクリスマス会などの地区の行事に参加し、地域住民と交流している。		
3		<b>○事業所の力を活かした地域貢献</b> 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で事業所の取り組みや研修状況等を、民生委員や地区住民に知ってもらったり、地域の行事等に参加した際に認知症について話しをさせてもらっている。		
4	(3)	<b>○運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の様子や事業所の活動、取り組みについて報告をし、家族や民生委員、地域の代表者や行政関係との意見交換で助言も受けて、サービスの向上に活かしている。		
5	(4)	<b>○市町村との連携</b> 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や介護認定調査、市のグループホーム連絡会などで事業所の実情や入居者の状況、事業所の取り組みを報告し、助言を得ながら、直面する課題等の相談できる協力関係を築いている。		
6	(5)	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は、外部研修に参加したり、身体拘束の禁止事項や弊害について内部研修でマニュアルをもとに理解を深めている。利用者を見守りながら、安全で自由な暮らしができるよう取り組んでいる。行動を抑制しない言葉かけなど、精神面にも留意して取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は、虐待防止研修への参加、報告を行ったり、マニュアルを通して虐待について学び、見過ごすことがないように防止に努めている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用している利用者もおり、個々の必要性に応じて活用できるよう支援している。また、講習会等の報告を行い、職員が学ぶ機会も設けている。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分に説明を行い、理解と納得が得られるようしている。文章を提示しながら、十分に説明し、理解と納得を得ている。		
10	(6)	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置したり、運営推進会議やアンケートなどで利用者、家族の意見や要望を確認している。また、家族とは面会時に個別に話したり、普段から密な関係を築く中で、利用者、家族の意向を運営に反映させている。		
11	(7)	<b>○運営に関する職員意見の反映</b> 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別に随時相談を受ける機会を設けているほか、月例会等で意見を出し合い、代表者、管理者に報告して運営に反映させている。		
12		<b>○就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員勤務時間について個別に話し合い、勤務変更も柔軟に対応している。また、職員個々の努力や実践等も把握しながら、向上心を持って働けるよう取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<b>○職員を育てる取り組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	講習会等の案内を掲示し、職員の自主参加や研修の呼びかけを行なっている。母体法人内でも、月例会で勉強会を行なっている。		
14		<b>○同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム連絡会や、近隣の事業所が集まる勉強会などに参加し、事例検討や取り組みなどを話し合っ、サービス向上に活かしている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<b>○初期に築く本人との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者本人からの要望や意見は傾聴することを職員に周知徹底し、利用者との信頼関係を築いている。		
16		<b>○初期に築く家族等との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族から聞く入所の経緯や要望等に耳を傾け、時間をかけて話し合い、納得してサービスを利用してもらえるように努めている。		
17		<b>○初期対応の見極めと支援</b> サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の意向を聞き、それぞれの意向に沿う支援となるよう必要なサービスを見極め、対応するようにしている。		
18		<b>○本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者一人ひとりの個性を見極め、家事や買い物等に参加できるように努めている。利用者の得意なことなどを職員が教えてもらったりしながら、共に過ごす関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p><b>○本人を共に支えあう家族との関係</b></p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族が気軽に訪問しやすい雰囲気づくりを心がけ、面会時に近況報告を行ったり、ケアプランに家族の意向を加え、家族と共に本人を支えていく関係を築くようにしている。</p>		
20	(8)	<p><b>○馴染みの人や場との関係継続の支援</b></p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>本人のこれまでの生活歴を踏まえ、馴染みの美容室に行ったり、イベントの時期には家族に地元の交流の場への参加の声をかけを行ったりと、これまでの馴染みの関係性が途切れないように努めている。</p>		
21		<p><b>○利用者同士の関係の支援</b></p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>仲の良い者同士で会話ができるように席を工夫したり、利用者同士でコミュニケーションが図れるように仲立ちしたりして、利用者が孤立せず生活できるようにしている。</p>		
22		<p><b>○関係を断ち切らない取組み</b></p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>契約終了後も、必要な時には相談や支援に努めて家族との信頼関係を大切にしている。</p>		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	<p><b>○思いや意向の把握</b></p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者一人ひとりと直接話しをして希望を聞いたり、その人らしく暮らしていけるよう意識しながら、日常会話や行動の中からも、本人の意向や思いの把握に努めている。</p>		
24		<p><b>○これまでの暮らしの把握</b></p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入所時に本人、家族、病院、ケアマネジャーからこれまでの生活歴や状況を聞き、入所に至るまでの経緯を把握できるように努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		<b>○暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの心身状態や日々の過ごし方等を把握しながら、本人の思いを大切に、本人の思いに沿った過ごし方ができるように努めている。		
26	(10)	<b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントとモニタリングを繰り返しながら、本人、家族の意向を踏まえて、本人がより良く暮らすことができるように職員、関係者と話し合い、ケアプランを作成している。		
27		<b>○個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の利用者の様子やケアの状況を介護記録に記入し、朝夕の申し送り時に職員間で情報共有をしている。ケアの見直しは、介護記録をもとに話し合って検討している。		
28		<b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b> 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療機関受診や美容院への付き添いなど、その時の家族の状況に応じて柔軟に対応している。		
29		<b>○地域資源との協働</b> 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員や地域住民から情報提供を受けたりして、利用者一人ひとりに合った催し物や行事への参加ができるよう支援している。		
30	(11)	<b>○かかりつけ医の受診支援</b> 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	これまでのかかりつけ医を基本に受診できるよう、支援している。希望により、事業所の協力医療機関をかかりつけ医とする利用者もいる。歯科受診が必要な場合には、往診も受けられるよう支援している。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職との協働</b> 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回看護師の訪問があり、利用者の状態を報告して助言指導を受け、必要に応じて受診する等、利用者の健康管理に努めている。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には職員又は家族が同行し、利用者の情報提供を行うなどして、治療できるように努めている。また、病院や家族と話し合い、早期に退院できるよう支援している。		
33	(12)	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時と重度化時に家族に説明し、同意を得ている。重度時には、家族の希望を第一に、早い段階から家族とかかりつけ医との話し合いをして、事業所で対応できることを説明し、家族、医療機関との連携を取りながらチームで支援に取り組んでいる。		
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、全職員が参加できるように日程を組み、救命講習に参加している。心配蘇生法やAEDの使い方などの訓練を行なっている。		
35	(13)	<b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導で年2回避難訓練を行っている。火災、地震等様々な場面を想定して、訓練している。近所の住民にも呼びかけ、訓練に参加してもらい、協力をお願いしている。さらに、災害時に備えて食料、飲料水、物品等の備蓄も行なっている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	<b>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</b> 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護についての研修を行なっている。個人を尊重し、言葉かけや排泄時での尊厳を傷つけないように対応している。個人情報についても、漏洩がないように周知徹底し、十分注意している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の話しを傾聴し、本人の思いを引き出して、色々な思いや希望について、本人が自己決定できるような働きかけを行なっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合やペースを優先するのではなく、利用者一人ひとりのペースやリズムに合わせて、できる限り本人の希望に沿って一日を過ごせるよう、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族に本人の好みをよく聞き、本人にもその都度確認し、例えば着替えなどでも選択できるようにして、その人らしい身だしなみができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりに合った食事形態や個々の好みを把握し、メニューに取り入れている。そのメニューが好きな利用者には、準備段階で「楽しみにして」等の声かけをし、一緒に準備したり、配膳、片付けも手伝ってもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日のメニューと食事、水分の摂取量等を日誌に記録している。利用者の嚥下状態や口腔内の状態に合わせて、刻み等の形態を調整し、利用者の好みに合わせた物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者個々に応じた口腔ケアを行っている。個人の能力に合わせて、声かけや介助を行なっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中、夜間共に本人に合わせたケアを行っている。排泄リズムを把握して誘導をしたり、日中の活動や水分補給で、できるだけ尿意を自覚してもらえるようにし、個々の排泄の自立を促すよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		<b>○便秘の予防と対応</b> 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	こまめに水分を提供し、水分摂取を促している。ラジオ体操等を行い、運動も働きかけながら、下剤等に頼ることなく、適切な排便が促せるように取り組んでいる。		
45	(17)	<b>○入浴を楽しむことができる支援</b> 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の入浴の希望や時間を聞き、合わせている。拒否があるときは無理強いせず、別の日にしたり、タイミングや声掛けを工夫し、納得して入浴もらっている。プライバシーや羞恥心に配慮しながら、気分良く入浴できるよう支援している。		
46		<b>○安眠や休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のペースや体調に合わせて、利用者一人ひとりに応じて休息出来るようにしている。		
47		<b>○服薬支援</b> 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人別に処方箋をファイルし、職員が常に確認できるようにしている。体調や症状に変化があったときには、医師や訪問看護師に相談して、すぐに対応している。		
48		<b>○役割、楽しみごとの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や趣味、本人の能力を活かして、家事やレクリエーションに取り組み、利用者一人ひとりが役割を持ち、気分転換をして楽しめるように努めている。		
49	(18)	<b>○日常的な外出支援</b> 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブ等で外出の機会を作っている。また、季節の花が咲く時期には花見に出かけたりしている。家族と外出する利用者もあり、季節に応じて地域の行事や、母体法人の催し物にも参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<b>○お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所で金銭を預かり、個人の希望や能力に応じて所持してもらい、買物時には自分で払うことができるように支援している。		
51		<b>○電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から手紙が来たり、本人に電話がかかってくることもあり、本人の希望があればこちらから電話するなどの対応を行なっている。		
52	(19)	<b>○居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室やリビング、全ての空間の清潔保持に努めている。適切な温度管理は、日差し等、季節や天候に合わせて柔軟に対応し、花を飾る等の工夫で快適に過ごせるよう努めている。		
53		<b>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには一人かけの椅子や共同のソファがあり、本人の好きな場所で過ごせるように工夫している。また、仲の良い利用者同士で過ごせる配慮もしている。		
54	(20)	<b>○居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室という個人の空間を大切に、プライバシーに配慮しながら入居時に使い慣れた馴染みの物や好みの物を持って来てもらっている。家族とも話し合い、必要があれば手すりや家具の配置を工夫している。また、本人の希望は家族に相談して、居心地良い暮らしができるよう支援している。		
55		<b>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビング以外の共同空間には手すりが設置されている。トイレ、風呂は1人用で、個人のペースに合わせた対応が出来るようになっていく。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない